

静岡放射能汚染測定室だより

第10号

2012年5月7日発行

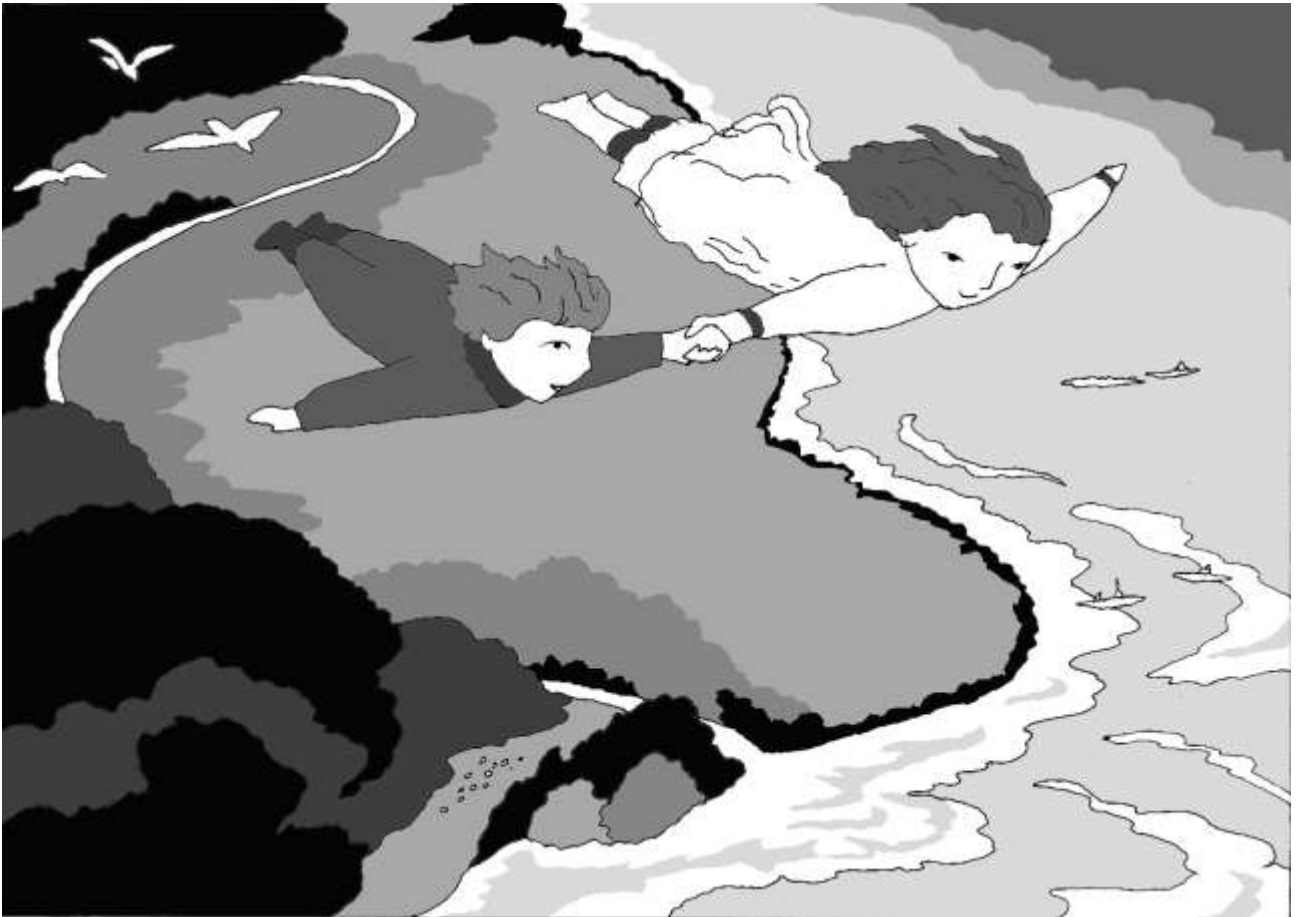


イラスト 清重伸之

目次

- 測定結果報告 ……1
- 測定についての補足 ……2
- 4月26日(木)
第9回『放射能を話そう♪』
報告と感想 ……3
- 『静岡の娘へ』(9) 河野益近寄稿文 ……4
- 島田の瓦礫試験焼却前後における
松葉調査の測定結果について ……6
- お知らせ
測定室だより9号の訂正について ……9
6月9日(土)測定室会員総会案内
震災瓦礫の広域処理を見直す要望書
小出裕章さん記念講演会申し込み要領…10
第10回『放射能を話そう♪』
測定室スタッフ、ボラスタッフ募集
- 測定室活動日誌 ……11
- プラムフィールドの窓 測定室の風

会員頒布用価格 1部 500円

測定結果報告 2012年3月6日～2012年4月7日

静岡放射能汚染測定室調べ 測定値の単位はベクレル/kg、()内の数値は検出限界値(単位はベクレル/kg)

・検体重量(g) ・NDは不検出 ・「↓」は検出限界値以下

産地	食品名	重量(g)	セシウム134	セシウム137	合計
静岡県富士宮市	いのしし肉(H23年11月15日捕獲)	814	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
岩手県陸前高田沖	生わかめ(H23年3月11日以降に種付・H24年2月中旬収穫)	579	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
山梨県北杜市	キウイ(H23年秋収穫:1回水洗い、皮付き)	702	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
静岡県島田市	梅酒(梅の収穫:H23年)	572	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
静岡県静岡市葵区	生しいたけ(H24年3月6日採取: 原木露地栽培、洗わずに石づきの下部を取る)	522	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
長野県長野市	りんごジュース(H23年産・自家製)	662	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
静岡県御前崎市	白米(H23年産)	640	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
静岡県牧之原市	生しいたけ(H24年3月7日採取: 地元原木露地栽培、洗わずに石づきの下部を取る)	343	ND(3↓)	ND(4↓)	ND
★北海道 上川郡新得町	黒豆(H23年11月収穫)	518	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
静岡県静岡市葵区	ゆずのシロップ漬(ゆずの収穫:H23年11月)	725	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
静岡県静岡市葵区	天日干し切干大根(H23年12月収穫・加工)	162	ND(5↓)	ND(8↓)	ND
北海道	白米(精米日H24年3月3日)	700	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
★静岡県静岡市葵区	いちご(H24年3月12日収穫・1回水洗いしヘタを取る)	580	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
静岡県御前崎市	レモン(H24年3月11日収穫・洗わず皮つき)	620	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
埼玉県蓮田市	月桂樹の生葉(H24年3月中旬収穫・洗わない)	243	11	17	28
熊本県熊本市	焼海苔(原料:アマノリ・H24年1月収穫)	76	ND(11↓)	ND(17↓)	ND
★1 福島県福島市	白米(H23年産)	690	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
静岡県沼津市	削り節(宗田かつお・さば・むろあじ:H23年9月漁獲)	183	ND(5↓)	ND(7↓)	ND
熊本県天草市	削り節(片口いわし:H23年10月漁獲)	234	ND(5↓)	ND(7↓)	ND
山口県	ちりめんじゃこ※1(天日干し・H23年10月～11月漁獲)	247	ND(4↓)	ND(5↓)	ND
北部太平洋海区、岩手県沿岸	ツノナシオキアミ ※2(H22年3月漁獲)	187	ND(4↓)	ND(6↓)	ND
北海道礼文島	真ホッケ干物(H23年8月漁獲)	686	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
★2 中国福建省泉州市	自然塩(原料:海水:輸入日H23年3月以前)	806	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※3 静岡県裾野市	甘夏(H24年2月下旬収穫、1回水洗いし皮と実を測定)	748	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
※4 静岡県静岡市葵区の2ヶ所	野草エキス(自家製・H23年4月収穫)	639	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
★ 長野県上高井郡	りんご(H23年11月収穫)	607	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
※5 不明	白米(収穫年不明)	593	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
★3 静岡県静岡市清水区	乾燥月桂樹の葉(H23年10月収穫、2回水洗いし乾燥したもの)	149	ND(6↓)	ND(10↓)	ND
静岡県御前崎市	ほうれんそう(H24年3月20日収穫)	538	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
福岡県八女市	抹茶(H23年5月～6月収穫)	400	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
三重県伊賀市	玄米(H23年産)	652	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
北海道岩見沢市	玉ねぎ(H23年9月収穫:皮をむき、根元をとる)	645	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
北海道釧路市周辺	シュレッドチーズ(製造年月日:H24年3月6日)	512	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
福島県須賀川市	玄米(H22年産)	620	ND(2↓)	ND(3↓)	ND

	産地	食品名	重量 (g)	セシウム134	セシウム137	合計
	静岡県御前崎市	海藻 (H24年3月25日採取、洗わず)	590	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
	静岡県静岡市葵区	畑の土 (H24年3月26日採取、2mmのふるいにかける)	1205	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県富士宮市	水道水 (H24年3月下旬採水)	985	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県富士宮市	梅干し (自家製・H23年6月収穫・種ごと測定)	727	3	4	7
	静岡県浜松市天竜区	緑茶 (H23年7月収穫)	298	80	123	203
★	福島県岩瀬郡	水道水 (H24年3月23日採水)	560	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
※6	栃木県那須郡	グリコ特選 那須高原牛乳 (賞味期限: H24年4月6日)	755	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	北海道北見市周辺	スキムミルク (賞味期限: H25年1月15日・集乳H24年1月中旬)	375	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
★4	静岡県静岡市駿河区	保育園砂場の砂 (0~2歳児用・採取H24年3月29日)	1393	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	茨城県小美玉市	白米 (H23年)	633	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
★	静岡県御前崎市灯台前海岸	海水 (採取H24年3月25日)	945	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※7	北海道	強力粉 (収穫H23年7月~8月)	454	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
★	静岡県菊川市	焼津市学校給食用豚もも肉 (H24年3月28日加工)	767	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
★	静岡県静岡市清水区	いのしし肉 (H24年2月初旬捕獲)	1012	2	2	4
★	岩手県上閉伊郡	塩蔵わかめ (養殖・製造日H24年3月28日: 洗わずそのまま)	488	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	岩手県上閉伊郡	塩蔵わかめ (養殖・製造日H24年3月28日: 洗ったもの)	554	ND (2↓)	ND (2↓)	ND

測定についての補足

- ※1 イワシ類の仔稚魚を食塩水で煮た後、天日干ししたもの。
- ※2 海中を浮遊生活しているエビ形の甲殻類で、ヒゲクジラ類や魚類の天然餌料として重要なプランクトンの一つ。日本海・駿河湾以北の北西太平洋海域に広く分布。寿命は1年。多くの固有種、回遊種の重要な餌となり、生態系における鍵種といわれている。
- ※3 種とホロも取り除き、ジャムの材料の状態での測定。皮5:実7
- ※4 野草20種類 (ドクダミ・フキ・ヨモギ・アカネ・桑の葉・イタドリ・アザミ・タラの芽など)
- ※5 到来物のお米。米袋に「福島県産・21年産」と表記してあったが、米袋は再利用の袋と判明。産地・生産年は不明。
- ※6 集乳はH24年3月24日。自社測定はしていないが、宮城県と栃木県産の原乳は週に1回、公的機関にて検査をしている。銘柄ごとの検査はしていない。

- ※7 産地が北海道の広域にわたっているため、製粉団体の組合で主要産地20ヶ所を抽出して検査を実施。20ヶ所すべてで、セシウム134・セシウム137ともに「不検出」(検出限界値10 Bq/kg以下)。収穫した玄麦は次年度の収穫まで、各農協のサイロで保管されている。

★印は、測定室の調査測定品です。

- ★1 『測定室だより8号』で報告した玄米 (セシウム134: 5 Bq/kg、セシウム137: 8 Bq/kg、合計13 Bq/kg) を家庭用精米機で白米にして測定。
- ★2 海水を半年~1年間静置する方法で製造。
- ★3 『測定室だより6号』で報告した月桂樹の乾燥葉 (セシウム134: 9 Bq/kg・セシウム137: 13 Bq/kg 合計22 Bq/kg) を2回水洗いし、再乾燥したもの。
- ★4 砂場の砂は、通常は1~2年に一度、足し増しまたは入れ替えがあるが、震災以降は行っていない。

～NaI で測定する放射性物質の定量について～

淡路島の山桜が散り始めました。檜の花粉も減ってきて、お父さんはほっとしています。元気になっていますか。暖かくなったので、お父さんも巣穴から這い出してごそごそしています。最近鏡を見たら髪だけではなく眉にも白いものが目に付き始めました。

ところで、お前の知り合いも新しく放射能を測る装置を購入するそうだね。装置を買えばなんでもできると思っているのではないかと心配しています。装置の性能を知らないで測っていると、装置が示している数値を正しく理解できないことにもなりかねません。放射線の検出器である NaI (エヌ・イー・アイ) を使って放射能を測るときに注意する点を、少しだけ話しておきます。

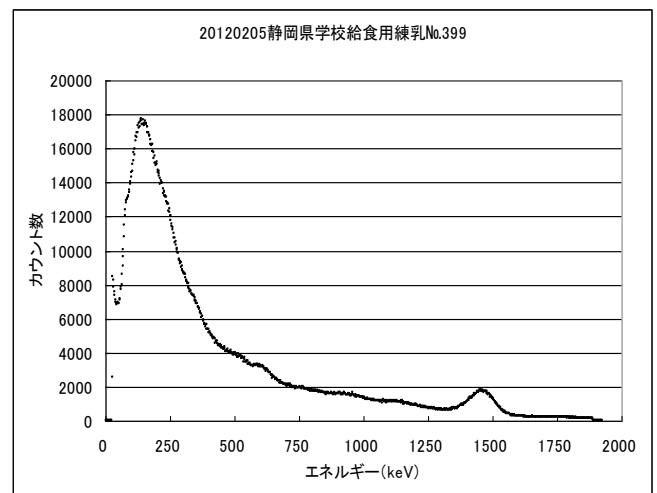
お前も知っているように、放射能とは、放射線を放出する能力のことですが、世間では放射性物質と同じ意味に使われています。放射能を測るということは放射性物質の量を測るということです。NaI で測定できる放射線はX線とガンマ線だけです。アルファ線やベータ線の測定はできません。

放射能は放射線の測定結果から計算して求めます。計算ですから、いくらでも細かい数値を出すことができます。

少し考えてみてください。例えば、3個の卵を台所の秤(1gまで表示)で測って100gだったとします。卵1個の重さを計算すると33.333...gになります。でもこの秤では3個の卵の重さは、99.5g以上100.5g未満だということしかわかりません。有効数字を考えると33g ± 2g、せいぜい33.3g ± 1.7gが妥当なところでしょう。放射能のあまり細かい数値は気にしないほうがよいと思います。あまり意味は無いので・・・。

放射線を検知したNaI測定器は、放射線のエネルギーに比例した電気信号を出力します。その電気信号の強さを横軸に、電気信号の数を縦軸に描くと、普段よく見るグラフになります。Cs-134やCs-137の放射能は決まったエネルギーの放射線を放出するので、エネルギー(グラフの横軸の位置)がわかれば放射能の種類を知ることが出来、放射

線の数(グラフの縦軸)から放射能の強さを知ることが出来ます。しかしNaI検出器はその原理から、ゲルマニウム半導体検出器と比べると、非常に荒いグラフしか描くことが出来ません。一般に売られているNaI放射能測定器は、この荒いグラフから計算で放射能を求めています。計算を単純にするために、例えば独立しているCs-134なら、横軸の一定の幅に含まれる放射線の数足を足し合わせて、その合計と放射能の値のわかっている試料(標準試料)の同じ部分の合計とを比べて、放射能を計算しています。おそらく、試料を入れない場合の測定結果(システムのバックグラウンド)の同じ部分の合計を、試料を測定した場合の数から引いていると思います。



セシウムが検出されなかった食品のスペクトル

Cs-137については、すぐ隣にCs-134のもう一つエネルギーの放射線が重なってくるので、隣のCs-134が重ならないような範囲で放射線の数を探し、同じようにして求めた標準試料と比較して、放射能を求めています。いずれの場合も電気信号の強さ(横軸)が変動するとCs-134は放射能を低めに、Cs-137はもう一つのCs-134の影響を受ける方向に信号が変動すると高めに、逆だと低めに評価するので、装置を安定に保つ必要があります。

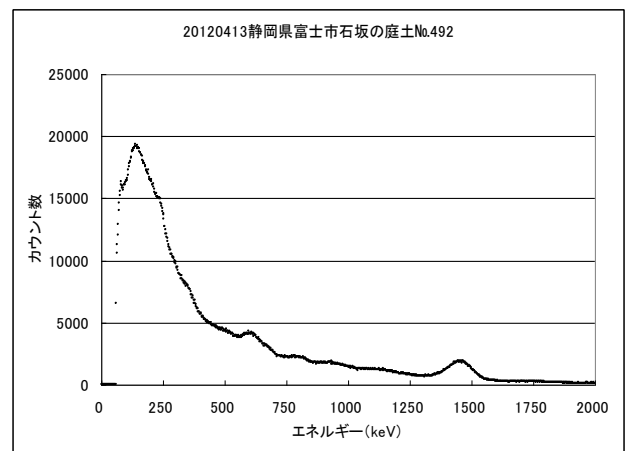
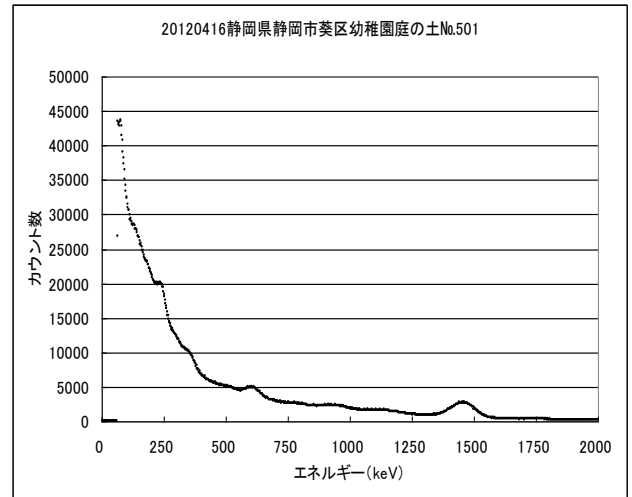
一方、放射線の数足を足し算している幅の中には、システムのバックグラウンドのほかに、試料を測定することによって、試料に含まれる地球起源の放射能(K-40、ウラン、トリウムやそれらから発

生ずる放射能（娘核種という）だけでなく、これらの放射能が NaI の内部で引き起こす物理現象（コンプトン散乱）によって生ずる電気信号も横軸に入ってくるので、その影響を計算上考慮しないと試料の放射能を多めに評価することになります。農産物などは K-40 だけを考慮すればよい（生物は進化の過程でウラン、トリウムを排除している）のですが、K-40 が多くなれば低い放射能は少し高めに出ると思います（同じ放射能でも試料に含まれる K-40 の量によって違う評価になる）。これに対して土壌は、農産物よりも地球起源の放射能を多く含むので、農産物よりもさらに放射能の測定結果は多めに出ると思います。

市販の NaI 放射能測定器を使う場合は、これらのことを頭の中に入れておいて測定結果を評価してください。細かい数字に振り回されないで、本質を見るように希望しています。

物理の苦手な娘へ

定量プログラムに苦労している京都の父より



セシウム134 + 137 合計で 10 Bq/kg を検出した土のスペクトル

■切り抜きコラム

福島原発の真実 新聞・テレビは報じない！

福島第一原発幹部が語る「原発収束宣言」は撤回すべきだ！

73シーベルトの地獄、開発中ロボットの想定放射線レベルはたった3シーベルト。

漏れ出した「汚染水」の気になる「行き先」。先が見えない「廃炉」までの道筋。

福島第一原発2号機で見つかった「73シーベルト」という、とてつもない放射エネルギーが突きつけた事実は、廃炉に向けた茨の道のほんの一断面に過ぎない。そもそもこの事故を引き起こした国と電力会社、原子カムラの面々に、人類が経験したことのない危機に立ち向かう資格と覚悟はあるのだろうか。

進んでいない遮水壁の工事水位60センチでは作業は困難。

今のロボットは3時間でアウト。

(週刊朝日4月13日号より抜粋)

はじめに

島田市が2012年2月16日、17日の両日、福島第一原発事故の放射能を含んだ震災瓦礫（主に木材チップ）の試験焼却を行うと発表した。その発表を受けて、放射能の再拡散を懸念する市民グループが、試験焼却前後に焼却場周辺や島田市内（一部隣接市）の6ヶ所とコントロール（比較対照）として静岡市内1ヶ所で松葉を採取し、松葉に含まれる放射能の調査を行った。

私は松葉の採取方法のアドバイスと放射能の測定分野でこの調査に協力させていただいた。ここでは、主として、焼却前後に採取された松葉に含まれる放射能について報告する。

松葉試料の採取

試験焼却による影響を調査するために、試験焼却前の2012年2月10日に第一回目の松葉の採取を行い、試験焼却後に第二回目の採取を行った。試験焼却後の採取は、2月18日（No.1）、20日（No.2, 3）、22日（No.4, 5, 6）。さらに一部については再採取を3月6日（No.4, 5, 6とコントロール（比較対照）1ヶ所）に行った。（図1. 参照）

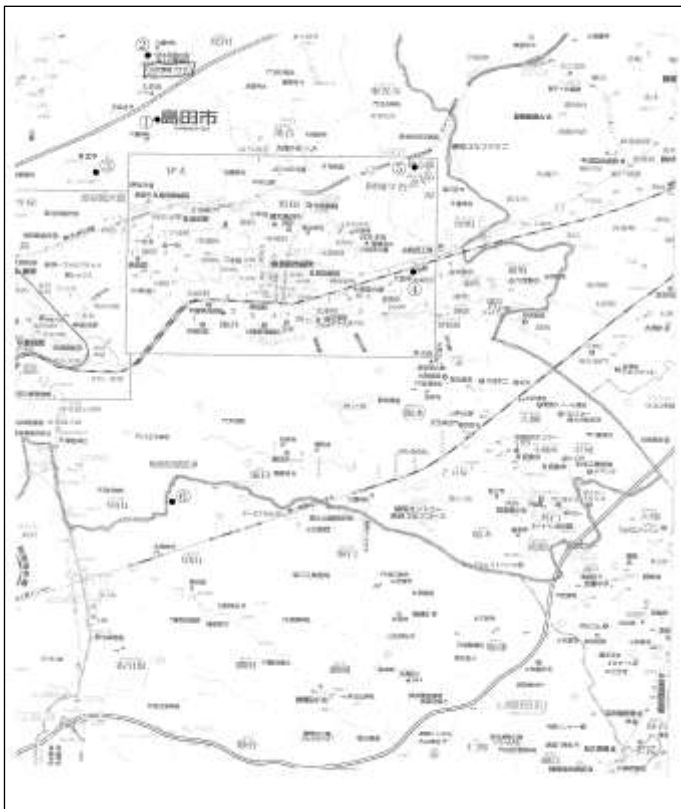


図1 松葉の採取場所

試験焼却前の第一回目の採取は、2010年と2011年に芽を出した葉を分けて採取した。試験焼却後の第2回目は2011年に芽を出した葉のみの採取をおこなった。これは福島第一原発事故からの放射能を直接浴びた2010年葉は、直接の影響を受けていない2011年葉に比べて放射能が10倍ほど高いため、新たに追加される放射能量を調べるためには放射能の低い2011年葉が有効だからである（図2. 参照）。

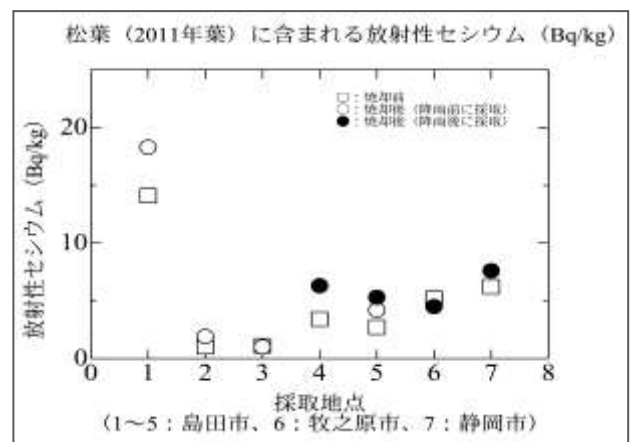


図2. 静岡県内での2010年葉に対する2011年葉の放射性セシウムの割合

松葉試料の測定

採取した松葉試料は、200ccの測定容器に封入し、ゲルマニウム半導体検出器で測定をおこなった（図3. 参照）。

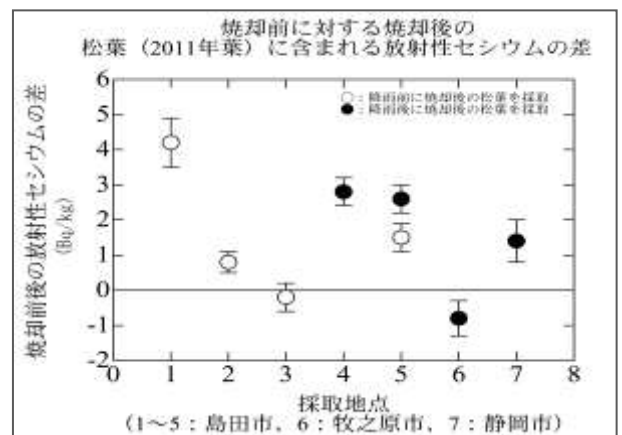


図3. 島田市の松葉（第二回、No.1、2011年葉）のガンマ線スペクトル

半導体検出器の周囲は、建物のコンクリート等からの自然放射線を遮蔽するために10cmの鉛で覆われてお

り、また鉛の内側は鉛からの自然放射線を遮蔽するために 10cm の純銅で覆われている。

測定に用いた松葉試料の重量はおよそ 53g~107g、測定時間はおよそ 70,000 秒から 270,000 秒である。検出限界は試料重量と測定時間によって異なるが、その最小値は Cs-134 で 0.35 Bq/kg、Cs-137 で 0.41 Bq/kg である。

結果と考察

第 2 回目目の測定で、高い放射能を示す松葉があった。2010 年葉の混入が考えられたので、一部は再度採取してもらい枝付きで送ってもらった。枝についた葉ならば簡単に 2010 年葉と 2011 年葉を選別できるためである。2010 年葉が混入すると、放射能の値がまったく変わってしまう。しかし再度の採取のため、新たに降雨という不確定要素が加わってしまった。ちなみに静岡市内の降雨は、2 月 23 日、25 日、29 日、3 月 2 日、4 日、5 日、6 日（午前中）で、激しい降雨もあった。

1. 瓦礫の試験焼却の影響を示唆する点について

まず、震災瓦礫の試験焼却の影響が考えられる点について述べる（図 4・図 5 参照、）。

- ① No.1 の放射能が、試験焼却後により高くなっている。増加の割合は、放射能量で約 4.2 Bq/kg、比率で約 130%となっている。試験焼却前でも他の採取場所に比べて放射性セシウムの放射能が高いことを考えると、焼却場で日常的に焼却されるゴミに含まれる放射能が溜まりやすい場所だと考えられる。
- ② No.4、5 が焼却後に高くなっているが、同時期に採取された静岡市内の松葉の放射能も少し高くなっている。これは降雨による影響（降雨によって松葉の放射能の一部は洗い流されるが、その洗い流された放射能がより下方の葉に付着したり、また降雨自身に含まれる放射能が松葉に付着したりすることが考えられる）だと思われるが、No.5 については、焼却後の降雨前に採取した松葉の放射能もわずかであるが高くなっている。降雨とは無関係に No.5 の地点は試験焼却後の放射能が高かった可能性がある。また、比率で見ると静岡市内の増加は放射能量で約 1.4 Bq/kg、比率で約 120%であるのに対して No.4 は約 2.8 Bq/kg、180%、No.5 は約 2.6 Bq/kg、190%（降雨前は約 1.5 Bq/kg、

150%）となっており、静岡市内に比べて増加した量、割合ともに大きくなっている。

- ③ No.2 は、約 0.8 Bq/kg と増加した放射能量は少ないが、焼却前後の比は約 180%になっている。以上が震災瓦礫の焼却の影響を示唆する結果である。

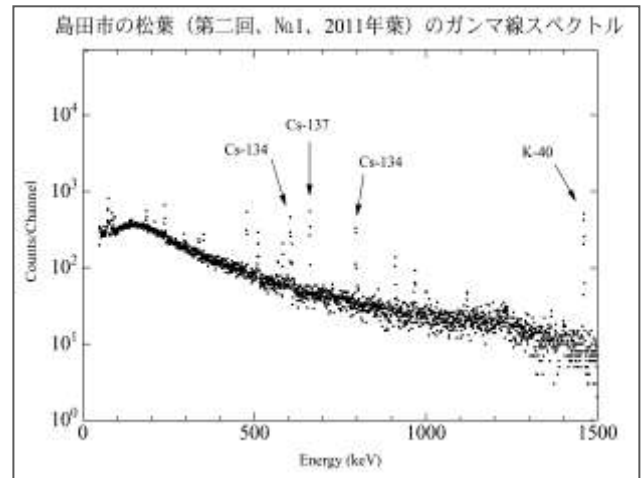


図 4. 松葉（2011 年葉）に含まれる放射性セシウム（Bq/kg）のガンマ線スペクトル

*) Cs-134, Cs-137 以外は自然放射線のピーク

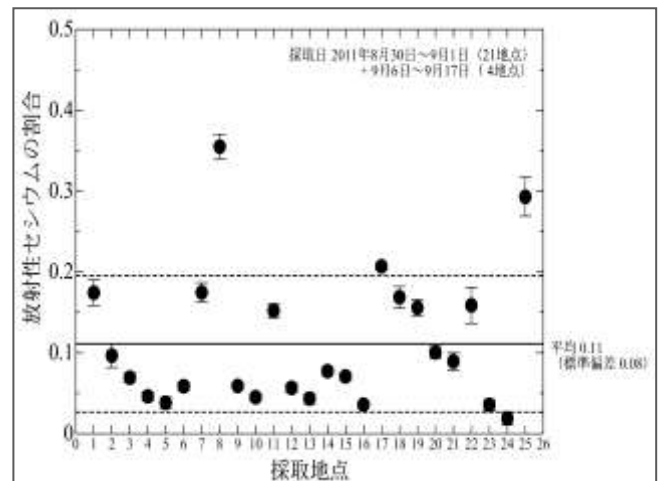


図 5. 焼却前に対する焼却後の松葉（2011 年葉）に含まれる放射性セシウムの差

2. 慎重さを要する点について

慎重になるべき点についても述べておかなければならない。それは以下の点である。

- ① 降雨の影響を考えなくてもよい試料でも、焼却前よりも放射能量で約 0.2 Bq/kg（比率で約 20%）低い場所（No.3）がある。
- ② 降雨後については放射能量で約 0.8 Bq/kg（比率で約 10%）低い場所（No.6）や約 1.4 Bq/kg（約 20%）高い場所（焼却とは無関係の静岡市内）がある。No.3 については、放射能量で考えれば、試験焼却前後で殆ど変化は無いと判断しても間違いではないと思

う。しかし、他の測定結果については、松葉は環境試料であるということを考えれば、瓦礫焼却の影響が無くても、少なくともこの程度(放射エネルギーで±1.4 Bq/kg、比率で±20%)の変化は起り得るということを考慮しておかなければならない。

結論

島田市の焼却施設は、ガス化・高温溶融一体型の炉で、燃焼・溶融帯の温度は1,000～1,800度であり、「ごみ中の灰分、金属、セトモノ、ガラスなどの不燃物が高温で完全に溶融され、有害な重金属類は還元雰囲気の下、後段の排ガス処理にて捕集されるため高品質の溶融物が産出されます。溶融物は急冷後、スラグとメタルに分離され再利用されます。」(島田市HPより引用)と説明されている。このような高温で、ゴミと共に環境に飛散した放射性セシウムを(化学形態がどうあれ)焼却するとガス化して消失すると考えられる。少なくとも松葉を坩堝で燃やすと松葉に含まれる放射性セシウムは消失する。さまざまな状況(焼却温度や焼却した放射性セシウムの総量と灰に残っている放射エネルギーの総量など)を考えれば、ある割合で放射性セシウムが焼却場から環境へ放出されていると考えることができる。

島田市の焼却場から周辺に放出された放射性セシウムは、卓越風に乗れ、谷に沿って流れ、No.1の松葉を汚染し、その後島田市内を東の方向(No.4, 5)へ向かったと考えることも出来るが、まだ推測の域を出るものではない。焼却が継続されるようであれば、継続した調査を行う必要があると考える。焼却される放射エネルギーの総量が多くなれば、環境に放出される放射エネルギーも多くなるので、焼却の影響を明らかにすることができるであろう。

おわりに

環境に放出された放射性物質は、回収しない限り形を変えて何時までも環境に存在し続ける。原発事故などで放射性物質が環境に拡散すれば、環境から放射性物質を回収するのにエネルギーが必要になる。瓦礫を広域に運ぶという無駄なエネルギーを使って各地に拡散された放射性物質が環境を汚染すれば、汚染を環境から減らすには更にエネルギーを投入しなければならない。エネルギーの再投入がなければ、時間だけが頼りとなる。

放射線による被曝は、その被曝量に比例して影響があると考えて被曝管理をするのが、現代科学の一般的な考え方である。したがって、福島第一原発からの放射性物質が少しでも回収され、あるいは人間の生活圏から遠ざけられない限り、広域への拡散という方法では、日本に住む人全体への放射線被曝の影響を低減することはできない。

100 Bq/kg以下というクリアランス・レベルは、もともと原子炉を解体した際に生じるコンクリートや鉄骨などを再利用するために決められたものである。本来は低レベル放射性廃棄物として管理すべきものであるが、原子炉の解体という近未来の現実を考えたとき、その管理すべき低レベル放射性廃棄物の多さに困惑した結果として便宜上出てきた数値である。このクリアランス・レベル以下のコンクリートや鉄材は、そのまま、あるいは放射能の無いものと混ぜて使うことが想定されていたはずである。すなわち、環境に持ち込まれたとしても100 Bq/kgを超えるような放射能の濃縮はおこらない。

しかし、今問題になっている震災瓦礫については、焼却が前提となっており、その結果、濃縮などにより100 Bq/kgを超える放射エネルギーが灰などに残留し、最大8,000 Bq/kgのものが、埋め立て処理されて各地の環境に持ち込まれようとしている。

今回の島田市の松葉の調査結果は、焼却灰の処理だけではなく、震災瓦礫の焼却に伴って焼却場周辺の大気が放射エネルギーによって汚染する可能性についても考えなければならないことを示唆している。

放射能を含む瓦礫を、放射性物質を管理できない一般の焼却炉で焼却するという行為は、放射性物質を管理するという点からは、本来絶対に行ってはならないことである。焼却可能な震災瓦礫(木材チップなど)や放射性物質を含む汚泥などは有機物を多く含むので、バイオ燃料の材料として使うことができる。バイオ燃料を作る過程で分離される放射性物質を回収すれば(そして回収された放射性物質を国が保管管理すれば)、瓦礫・汚泥の焼却によって放射性物質を再び環境に拡散させることはなくなる。現時点でバイオ燃料の製造が割高であっても、放射性物質の回収という観点から考えれば、補助金を出したとしても市民は納得するのではないだろうか。せめて、専用の焼却施設を建設してほしいものである。以上。

■ 測定室よりお願い

■ 震災瓦礫の広域処理を見直す要望書を環境省に提出します。署名も開始します。

環境省の大宣伝により、各地で瓦礫の受け入れを表明する自治体が出ていますが、測定室では会員さんの協力を得て、被災地の瓦礫は現地だけで処理を行っても約2年で終わられる事を宮城県、岩手県の担当者への調査取材で確認をしました(資料1)。

当測定室で実施した島田市の試験焼却における松葉の環境調査の結果(資料4)も今回の測定室だより(10号)で、全文掲載をしました。バグフィルターでは放射能の排出を止められない事(資料2、3)、瓦礫が放射能だけでなく、多くの有害物質を含んでおり、焼却による処理は有害物質を濃縮し、最終処分場から漏れ出す危険性もあります。(資料5)

今回、環境大臣に提出する要望書を同封しました。要望書に提示した資料は、全てHPに掲載していますのでご覧ください。

要望書に賛同いただける方は、署名用紙、あるいはHP上のインターネット署名にてご参加ください。また、瓦礫の広域処理について疑問をまとめたチラシ(資料6)を同封しました。ご利用ください。

(資料1～6全資料は、HPに掲載しますので、ダウンロードしてご利用いただけます。)



■ 測定室よりおしらせ

■ 測定室だより9号の表記訂正とお詫び

測定結果表に以下の記載ミスがありましたこととお詫びいたします。

● 1～2頁

- ① ※2 静岡県藤枝市 緑茶 【誤】 収穫 H22 年
⇒ 【正】 H23 年
- ② 静岡県静岡市葵区 いちご 【誤】 収穫 H23 年
⇒ 【正】 H24 年
- ③ 茨城県 さつまいも 【誤】 購入 H23 年
⇒ 【正】 H24 年
- ④ ★4 静岡県静岡市葵区 小川の川底の砂
⇒ 【追記】 H24 年 2 月 18 日採取

●3頁 参加者の感想

右段下から3行目 【誤】「場さんをはじめ～」
⇒ 【正】 馬場さんをはじめ

●10頁 放射能を話そう♪の開催日

【誤】 4月26日(月)
⇒ 【正】 4月26日 (木)

■ 6月9日(土) 総会のご案内(議決権をお持ちの会員さんへ)

～総会資料の送付と総会開催について～

6月9日(土)は、測定室第1回総会を迎えます。議決権のある会員(団体会員・会員・旧会員)には、総会資料(会員通信、会計報告案、活動報告案、会計執行案、活動方針案)を同封させていただきました。当日、ご参加いただけない方は、お送りしました委任状に必要事項を記入し、**5月20日(日)までに**投函していただきますようお願いいたします。会場等、詳細は会員通信をご覧ください。

なお、情報会員の方は議決権はありませんが、オブザーバーとしての参加とさせていただきます。

■6月9日(土)14時からの小出裕章さんの

記念講演会、参加申し込み要領

5月1日現在、まだ、参加申し込みは可能です。
来室申し込みが出来ない方が、参加費を振り込み下さり、測定室HPの講演会の案内頁にありますフォームより申し込みを下さい。

参加費振込を確認次第、参加券をお送りします。
お電話での申し込みも受け付けています。

【キャンセル要項】ご都合により、参加費を払い込み後、参加できなくなった場合、6月6日(水)までにご連絡いただいた方には、返金振込料を差し引いた全額をお返しいたします。キャンセルの連絡の際、返金口座をお知らせください。郵貯口座をお持ちの方は振込料無料でお返しできます。

6月7日以降のキャンセルの場合は、それ以後の測定料、年会費の一部に充当させていただきます。

■“第10回、

「放射能を話そう♪！」は

6月に開催します。

毎月開催しています“放射能を話そう♪！”は5月は総会の準備と新しい測定器の増設準備のため、お休みをさせていただきます。

次回開催は6月です。お楽しみ企画を考えています。

5月の“放射能を話そう♪！”はお休みですが、その分、お時間のある方はいつもで測定室にいらして下さい。ボランティア作業、Tea Time等、いつもで大歓迎です！！

■測定室ボランティアスタッフのメーリング登録を募集します

現在、コア・スタッフ8名。常勤スタッフはいませんので、それぞれが都合の良い日に当番を担当しています。新しい測定器を増設すると、測定件数も増えますので、静岡市近郊の方、是非、活動をご一緒下さい。作業のある時に参加していただくという形です。特に『測定室だより』の発行作業に参加していただけると助かります。ボランティアOKの方はボランティアスタッフとして、メーリング登録をして下さいませんか？ボランティアスタッフにはプチ特典を準備してお待ちしています。

ただし、現時点では、コア・スタッフにも交通費実費や時間給は出ていませんので、アルバイトにはならない点をご了解ください。登録いただいた方には、月1回～2回程度、測定室よりボランティアお願いメールを送らせていただきますので、参加可能な時はお返事を下さい。都合が悪い時は返信無用です。

<p>静岡市焼津市焼津加工業者で作る焼津産茶葉同組合と協同組合焼津水産加工センターは12日、焼津を乾燥させる際に用いる木灰から、産廃廃棄物として処理できる基準値の1.5倍超えの放射性セシウムが検出されたと発表した。基準値を超えた木灰は8.5シあり、同センターは今後、環境省に指定廃棄物として申請し、国の管理下で処分するという。焼津の放射性セシウムは、検出限界値未満だった。</p> <p>同センターによると、木灰は焼津産茶葉を乾燥させるために使う薪の燃えかすで、同団体は年3回、加工業者から</p>	<p>焼津市焼津加工業者で作る焼津産茶葉同組合と協同組合焼津水産加工センターは12日、焼津を乾燥させる際に用いる木灰から、産廃廃棄物として処理できる基準値の1.5倍超えの放射性セシウムが検出されたと発表した。基準値を超えた木灰は8.5シあり、同センターは今後、環境省に指定廃棄物として申請し、国の管理下で処分するという。焼津の放射性セシウムは、検出限界値未満だった。</p> <p>同センターによると、木灰は焼津産茶葉を乾燥させるために使う薪の燃えかすで、同団体は年3回、加工業者から</p>
---	--

どうして？
次ページにもハウレンソウの異常生育写真があります



(宛名)

測定室活動日誌

2012年3月31日(土)～4月30日(月)

3月31日(土) 放射能測定伊那谷市民ネットワーク

<http://rm-ina.net/> 主催の講演会

講師として馬場参加

4月11日(水) 日本消費者新聞の取材

(東京にて 馬場)

4月14日(土)～4月27日(金)

測定室だより 10号編集

4月18日(水) 測定室スタッフミーティング

4月20日(金) 三島市“自然派ママたちの座談会”

主催の学習会。講師として馬場参加

4月26日(木) 第9回“放射能を話そう♪”

編集・発行：静岡放射能汚染測定室 事務局
〒420-0882 静岡市葵区安東 1-2-3 プラムフィールド内
TEL/FAX 054-209-2021 (月～金 10:00～16:00)
測定室Ph 070-5034-0920 (月～金 9:00～17:00)
e-Mail ssokuteisitu@yahoo.co.jp
URL <http://sokuteisitu.plumfield9905.jp>



巨大化した
ホウレンソウ
(右下は携帯電話)
静岡県御前崎市産

プラムフィールドの窓・測定室の風

測定室のあるプラムフィールドのスペースは、今、溢れていたリユースの洋服や雑貨が片付いて、広い空間に変身していています。

放射能測定に余裕をもって取り組むため、5月から、私たちの活動のひとつだった『物の命を大切に、不要になった物を必要な人へ橋渡しをする』リユースの活動をお休みする事にしたのですが、リユース・スペースの会員さんは480人以上。十二年間で地域に定着した場になっていたので、思いがけず、惜しんで下さる声が大きく、申し訳ない気持ちでいました。

そんな想いをくみ取るように、プラムフィールドのリユース活動を引き継いでみたいという人が登場して下さいました。・さて、どうなりますか？案ずるより産むが易しの私たちです。

■スタッフ 森田静子さんを紹介します。

明るく、元気な森田さんはスポーツ・ウーマン！学生時代は体操部、子育て中もモダンダンスに、今はピラティスの先生でもあります。鍛えた体はしっかりとした筋肉美！心も体もゆるゆるとしたスタッフが多い中、森田さんの引き締まったお尻は羨望の的です。大きな笑い声もスタッフを励ましてくれます。

馬場利子

■スタッフのつぶやき

科学も物理も大の苦手、放射能についてよく解らないし、パソコンもちよつとなあ〜々な私は、測定室落ちこぼれスタッフですが、そんな私でも、ひとつ確実に言えるのは「放射性物質と生物は共存できない」という事。

2年ほど前から、「やだなあ、もうこりごりだよ」と思う人や「もう二度と会いたくないあ」という人とは本当に関わらなくても済むようになりました。この能力、実は誰にでもあるんですよ。だから、みんな強く思いませんか。「原発はもういらぬ！」と。森田静子